

兵庫教育大学教科教育学会 シンポジウム発表要旨
『英語科における関心・意欲・態度の評価の理論と実際』

言語系教育講座（英語） 次 重 寛 禧

1. はじめに

「好きこそものの上手なれ」と諺に言う。生徒が、英語の授業に興味・関心を抱き、英語を「理解し」英語で「表現する基礎的な能力を養い」、英語で「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を持って英語の授業に意欲的に参加するかしないかは、英語の授業を設計する英語教師の力量にかかるところが大きい。しかし、生徒は自分の学習目標を自覚しそれに向けて一步でも近づくための道が示されれば、生徒は自分から進んでその目標を目指して一人で歩き始めるであろう。

2. 「コミュニケーション能力」・「態度」とは何か

2.1 「コミュニケーション能力」は、つぎの4つの能力から構成されているという Canale, M. (1983)の考えが、今日一般に受け入れられている。

1. 文法能力: 語彙・語形成・文構成・句読点など言語規則に関する習熟
2. 社会言語学的能力: 意味と形式について社会言語学的に発話が適切であることに関する習熟
3. 談話能力: 話し言葉と書き言葉によるテキストの統一性を達成するため文法的形式と意味との結合を図ることに関する習熟
4. 方略的能力: コミュニケーションの行き詰まりを補いそれを一層効果的にするためにとられる言語的・非言語的方略への習熟

「関心・意欲・態度」と最も関係のある能力は、「方略的能力」である。コミュニケーションの内容に関心を持ち、コミュニケーションを行う意欲があり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度があれば、コミュニケーションが行き詰まった際何とかしてコミュニケーションを持続させようと努力する。その時必要になるのは「方略的能力」であるからである。

和田(1993)も「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を「コミュニケーションを持続し活性化する」努力ととらえれば、「態度」は「方略的能力」とほぼ同義であるとしている。

2.2 「態度」には、目標言語を話す国民に対する態度と学習している言語を実際に使用することに対する態度の2種類がある(Gardner, 1985)。

「態度」には、つぎの5つの特徴がある(Baker, C. 1988)。1) 態度は認知的でありまた情意的な面を持つ。2) 態度は二極的であるよりもむしろ次元적이다。3) 態度は人にある方向への行動を取らせる。4) 態度は学習されるものである。 5) 態度は持続する傾向を持つが経験により修正される。 (下線筆者)

3. 「積極的態度」と「英語学力としてのコミュニケーション能力」との関係

Spolsky(1989)の条件51: 第2言語のどの面にしろ、学習に費やされる時間が多ければ多いほど、より多くのことが学習されるであろう。

Spolsky(1989)の条件52: 第2言語のどの面にしろ、学習者の動機づけがなされているほど、学習により多くの時間を費やすであろう。

Spolsky(1989)の条件53: 学習者の態度は、動機づけの向上に影響を与える。

* Gardner(1985)やSpolsky(1989)などを参考にすると、態度・動機・コミュニケーション能力などの関係はつぎのようになる。まず、学習者を取り囲む社会的文脈があり、学習者はその影響を受けて目標言語社会に対する態度及び目標言語学習状況に対する態度を形成する。その態度から、「努力行為+学習目標達成意欲+言語学習への好意的態度」からなる動機が生じ、その動機をバネにして目標言語の知識を獲得し練習を重ねることにより目標言語に徐々に習熟してコミュニケーション能力を得るにいたる。→ 動機を高めることの必要。

* 「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」は、動機に支えられた学習への参加度及び方略的能力の具現化によって表出されると考えたい。

仮説: 外国語である英語によるコミュニケーション能力は、英語でコミュニケーションを図ろうとする積極的態度によって育成される。同時に、その積極的態度は、コミュニケーション能力の伸長により更に積極的なものになる。

4 態度評価の実際

ここでは、小林(1994)の「聞くこと」における「態度」の指導と評価の実践事例の概要を紹介し、態度評価のあり方を考える手がかりを得たい。

態度は目に見えるものであるとの考えから、態度の指導目標は、行動目標として具体的に提示する。

態度の評価下位項目（① - ⑥ 1 学年、⑦ - ⑧ 2 学年、⑨ - ⑩ 3 学年）

- ① 発話が始まったら静かに聞こうとする。
- ② 相手の方を見て聞こうとする。（目を見る）
- ③ 相手の話にながめたり、あいづちを打つ。
- ④ 重要事項についてメモを取って聞こうとする。
- ⑤ 聞き取れなかった場合に意思表示や質問をしようとする。（日本語）
- ⑥ 内容や必要に応じて、相手の言ったことに合った行動をしようとする。
（相手への拍手や賞賛・ながめ・激励 [日本語] などを含む。）
- ⑦ 相手の言った内容に対して質問や意見、感想、要望を言おうとする。
（日本語）
- ⑧ 聞き取れなかった場合に意思表示や質問をしようとする。（英語）
- ⑨ 相手の言った内容に対して質問や意見、感想、要望を言おうとする。
（英語）
- ⑩ 内容や必要に応じて、相手の言ったことから発展した行動をとろうとする。
（相手への拍手や賞賛・ながめ・激励 [英語] などを含む。）
- ⑪ 相手の言ったことに対して自分のこと、他のことなどと比較しながら、
自分の感想や意見を持ちながら聞こうとする。

評価例

題材：インタビューゲーム、活動形態：グループ、

指導目標：（ア）自然な口調で話されたり読まれたりする文や文章の内容を聞き取る。（大事なポイントを聞き取る。）→聞くこと的能力

（イ）積極的に英語を聞き取ろうとする。→聞くこと態度

評価項目：③ ⑧ ⑨ ⑩

事前指導：

③について；"Yes." / "Sure." / "Great." / "Is that so?" / "I'm afraid not." / "Do you?" / "Oh!" / "That's too bad.", etc.

⑧について；"Sorry, but I missed that." / "Sorry, I didn't hear you." / "I beg your pardon.", etc.

⑨について；"I have a question. ~?" / "May I ask a question? ~?" / "I'm impressed. ~." / "Please ~." / "Would you (please) ~?", etc.

⑩について；「相手の話したことに對して何かしら感じる事があれば、拍手・賞賛・ながめ・その他の行動（何かを渡すとか、見せるとか）を自分なり

の考えでしてみよう」。

インタビューゲーム：ある話題・表現形式のもとで、自分のことをまず伝え、相手にたずね聞き取るというペアー・インタビューを行わせる。

評価活動：聞き手の反応に注意し該当行動が観察された場合には「○」印を記入し（グレイディングするならば、A, B, C, の評定も可）、その累積を後日補助簿に記載する。

5 指導の留意点と評価の方法

英語学習への関心を持たせ、学習意欲を高めさせる一方、生徒から不安・気恥ずかしさ・抑圧的不満など負の心理的要因を除去し、自由に発言できる雰囲気醸成し、人は間違いによって学ぶものであるとの認識のもとに自信を持たせ、コミュニケーションの素晴らしさを体験させて、動機づけの向上を図る。

→英語の不十分な知識・技能を補い更に高めて、コミュニケーション能力の育成・充実を図る。形式よりも意味に重点をおく。

生徒の持つ態度は、学習行動になんらかの形で現れやすいものである。→教師の観察・ビデオやTPなどによる記録・生徒の相互評価・生徒の自己評価；生徒との面談・質問紙→生徒の内面に关わるものの評価も可能である。

参考文献

Baker, C.: *Key Issues in Bilingualism and Bilingual Education*, Clevedon, Avon: Multi-lingual Matters, 1988.

Canale, M.: 'From communicative competence to language pedagogy' in Richards and Shumidt (eds.): *Language and Communication*, London: Longman, 1983.

Gardner, R.C.: *Social Psychology and Second Language Learning: the Role of Attitudes and Motivation*. London: Edward Arnold, 1985.

小林和夫「聞くことにおける態度の指導と評価」 in 和田 稔、1994.

Spolsky, B.: *Conditions for Second Language Learning*, Oxford: Oxford University Press, 1989.

和田 稔『コミュニケーションを図ろうとする態度の育成と評価』、開隆堂、1994.